

第5回 子どもの頃の遊びについて

(1) 畑で

第1回にも書いたように、私の家は専業農家でした。ですから、親がどこかに遊びに連れて行ってくれるということは滅多にありませんでした。

普段は、親と一緒に畑や田んぼに行き、土遊びをしたり山の中を歩いたりしていました。秋の収穫時期など忙しくなると、昼の弁当を持って畑に行きました。たいしたおかずがなかったわけではありませんが、畑で食べるご飯はとってもおいしく感じたことを覚えています。これは私の記憶には残っていませんが、私がまだ小さい頃、肥溜めに落ちたことがあるそうです。洗うのがとても大変だったようです。

(2) 海で

夏には海でよく泳ぎました。といっても、何とか泳げるようになったのは、小学校の高学年になってからですが……。海で遊ぶ場所は決められており、当番のお母さんたちが順番に来てくださっていました。海に入る前に名前を書いた木札を渡し、帰る時に返してもらいます。時間は午後2時から4時までだったと思います。3時になったら、みんないったん海から出て休憩しました。

夏休みになってからお盆まで、ほぼ毎日海に行きました。ですから、一夏に2回ぐらいは日焼けで皮膚がむけていきました。家から海までは歩いて数分でしたので、海水パンツをはいて、バスタオルを肩にかけて海に行っていました。家に帰ったらそのままお風呂に行き、塩水を流します。風呂から出て食べたスイカは、何ともおいしかったですね。

(3) 学校で

学校では変な遊びがありました。小学生の頃の校舎は木造で、その周りには溝がありました。この溝を囲む細いコンクリートの縁の上などを通して、とにかく土を直接踏まないように校舎の周りを1周するというものでした。時には塀を乗り越えるようなこともしました。不思議に先生にしかられた記憶はありません。

小学6年生になった頃だったと思いますが、バックネットの前でバットでボールを打ち、バックネットを超えさせるという遊びが流行りました。休み時間になると、バットとボールを持って運動場に行き、ワーワー言いながら遊びました。夢中になって遊んでいて、授業の始まりのチャイムが鳴ったのを聞きそこね、いつまでも遊んでいて、とうとう先生から禁止命令が出てしまいました。

ピンポン野球というのもやりました。これは室内の遊びで、サウンドテーブルテニスの球をピッチャーが転がし、これを手で打つというものです。畳の上でも床の上でもできました。部屋の大きさにもよりますが、ピッチャーから3～4メートル離れた壁やドアにちりとりを立てかけ、球がこれに当たったらストライクになります。ですから、大きく曲がるカーブを投げて、ちりとりの端に当てたり、剛速球を投げたりしました。打つ方は、どのようにしたらライナーが飛ばせるかというような工夫をしていました。守備陣をゴロで抜けたら1点とか、窓ガラスに当たったら3点とか、その時に決めたルールでしていましたね。他には使い古しの点字用紙で紙飛行機を作って飛ばしたり、白杖でチャンバラをしたり、いろいろとしましたね。

今回はとりとめもなく子どもの頃の遊びについて書いてみました。みなさんと共通のものはあったでしょうか？

筆者：志水克典(岡山ライトハウス点字出版所 所長、元岡山県立岡山盲学校教頭)